

平成27年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

16号

発行日
平成28年3月11日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

～ホールレセプションニスト研修～



「ホールレセプションニスト」とは、コンサートホールでの本格的なサービスを担うプロの接客係のことです。ご来場のお客様への場内案内、チケットテイク、クローケ業務をはじめ、コンサートホールにおける様々な接客業務を担当する。このホールレセプションニストの技術を学ぶ研修会を、サントリパブリシティサービス株式会社から林理央氏を講師としてお招きし、1月15日(金)に宮古市民文化会館、16日(土)に久慈市文化会館にて行った。

まずは座学にて、基本のサービスマナーについてご指導いただいた。

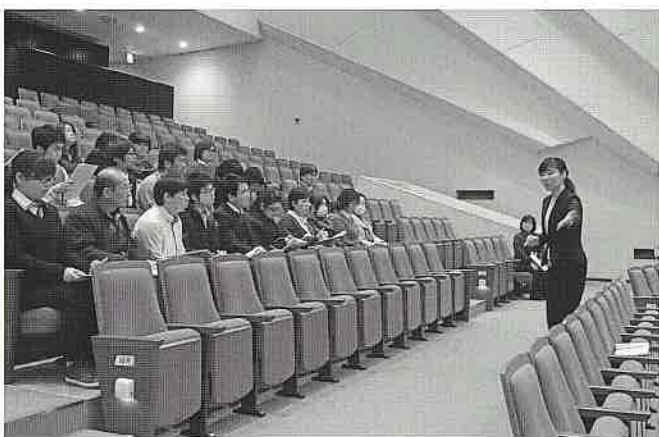
- ・人間の第一印象は5〜7秒で決まる
- ・第一印象は「外見(身だしなみ・態度)」、「話し方(トーン、ボリューム、



スピード、言葉遣い)、「内容」の3要素から構成される

- ・身だしなみのポイントは「万人受け」と「清潔感」
- ・表情のポイントは「目元」「口元」「心」
- ・「会釈」「普通礼」「敬礼」の使い分け
- ・顧客満足度を高めるための方法
- ・好感度アップに繋がる会話テクニック等について、実演を交えながら指導を受けた。

続いて、実際にロビーとホールを使用し、チケットテイク、ロビーや客席内でのお客様の案内など、レセプションニスト業務の中心について具体的に教えていただいた。チケットテイクひとつとっても、正確かつスピーディーにチケットの確認・もぎりができることは



勿論のこと、チケットの種類や券面の配置を覚えていること、会場内のトイレや自動販売機等の位置、上演時間・休憩時間についてきちんと把握しておくことも重要であるということがわかった。また、お客様に禁止事項(飲食、写真撮影など)のお声かけをする際は、「禁止」など強い言葉は使用せず、可能な限り代替案を提案すること、説明がより受け入れられやすくなるということについても学んだ。

この研修を通して、これまで自己流で行っていた接客業務を今一度見直し、お客様によりよいサービスを提供するためにどうすればよいかについて考えることができた。また、今回の研修の中心は、ホールレセプションニストとして業務に携わる際には勿論の

こと、日頃の生活においても活かせる内容が非常に多いと感じた。参加者からも「ためになった」「スタッフ全員で共有したい」「今後も定期的に開催してほしい」等の声が多く挙がった。

(報告：小笠原尚子)

《参加者アンケート抜粋》

大変勉強になりました。この仕事をして20年以上になりますが、このような研修を受けたことがありませんでした。今後このような研修を(中央から講師を呼んでいただいて)開催して頂くと良いと思います。

(50代女性/文化施設職員)

普段から慣れの中で対応しており、改めて気付かされた部分や、今後さらに充実させていこうと思う部分がありました。今日の研修ではわかりやすく、すぐに実践したい部分が多々あり、とても勉強になりました。もっとじっくりと学びたいと感じました。

(30代女性/文化施設職員)

お客様対応のために「引き出しがたくさんあること」が有効とお話がありましたが、今回の参加者の色んな質問への回答に全て参考となる提案をして下さり、先生のように、考えながら日々仕事をできるようにしなければと思います。

(50代女性/市町村職員)



「あの日から」は、東日本大震災後、岩手県出身の12人の作家が震災をテーマとして執筆した作品を1冊に纏めた短編集である。この「あの日から」に収められた作品全14話をそれぞれ朗読劇として県内各地で上演し、東日本大震災を語り継いでいきたいという思いから、この朗読劇を企画した。昨年11月には岩泉町にて「スウィング」(作：大村友貴美)、12月には陸前高田市・大船渡市で「海から来た子」ほか(作：柏葉幸子)をそれぞれ上演。今回上演した「加奈子」は、沿岸地域で上演する公演としては四番目の公演となる。これまでの沿岸三市町での公演はすべて入場料無料で実施してきたが、今回、宮古市にて公演を実施するにあたり、有料公演(前売料金1000円、当日料金1200円)での実施を試みた。

普段意識をあまりせずに行っていたことが、このような理由でこうなっているということが分かりました。有意義でした。

(40代男性/市町村職員)

沿岸地域での文化支援推進員(地域文化コーディネーター)育成事業 「宮古地域の文化・芸術を語り合う会」

「沿岸地域での文化支援推進員(地域文化コーディネーター)育成事業」の27年度事業として、去る1月28日(木)宮古市民文化会館・会議室にて「宮古地域の文化・芸術を語り合う会」を実施した。この事業は、沿岸地域で文化芸術活動に興味がある、あるいは参加している方々を対象に復興段階に即したニーズと、課題をキャッチできる感性を持った人材の育成を目指し、地域ごとに文化活動の支援コーディネーターを配置し、将来的に文化支援ネットワークのコーディネーター事業との連携も見据えたものである。今年度は宮古地域、釜石地域での開催を進め、今回の宮古地域での開催には、宮古市内を中心に活動する、芸術文化団体の皆様にお集まり頂いた。ご参加くださったのは、6団体9名の方々。宮古



芸術文化協会会長(宮古吹奏楽団団長兼務)をはじめ、宮古美術協会より2名、宮古書道協会より3名、宮古華道協会、岩手県ピアノ音楽協会宮古支部、宮古市民文化会館より各1名、そしていわて文化支援ネットワークの代表の坂田裕一がナビゲーターとして、宮古地域の芸術・文化各団体の現状と、問題点について語り合った。

以前より、宮古芸術文化協会の会長から、今まで宮古地域の他芸術団体同士が集まり、語らう機会がないので、是非そのような会を地元で開催して欲しいという要望もあり、今回この会を通じて横軸連携の推進も図ろうというコンセプトも盛り込んだ開催となった。顔合わせの挨拶の後は、終始活発な意見

東京で暮らす中、自分が被災者なのかそうでないのかという間で葛藤する、被災地出身の主人公・加奈子。故郷である下閉伊郡歌詠町への想いを捨て切れず、衝動的に故郷へ戻り、その中で自分には何ができるのかを必死で模索する様子を描いたこの作品を、畑中美耶子さん、大塚富夫さん、坂口奈央さん、江幡平三郎さん、甲斐谷望さん、米澤かおりさん、以上6名のアナウンサー陣が朗読した。

終演後、作者の平谷美樹さんも交えたアフタートークを実施。まず冒頭に映画版「加奈子(仮)」予告編を鑑賞した後、この作品が生まれたきっかけや、朗読してみたい感想などについてそれぞれお話を伺った。

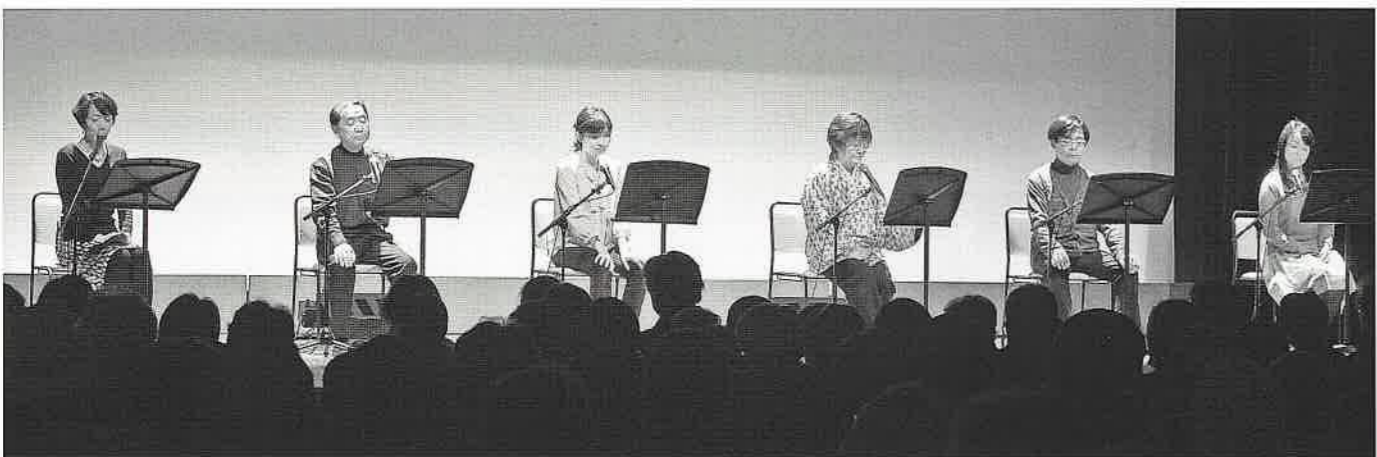
平谷さんは「震災以後、幼少期を過ごした宮古のことがとても気にはなっていたものの、何をしたらいいのかかわからなかった」と語った。おそらくこれは内陸に住む人間の多くが抱える悩みであり、内陸に住む人間の視線から何かを書くことはできないだろうか、被災地のことや気になっているもの、どのようなもなか



た人たちのことを書くことはできないだろうか、という思いから、この作品を生み出したという。

出演者の畑中美耶子さんは、「震災をテーマにした作品を朗読するのは初めてだが、加奈子の気持ちがとてもよくわかる。また、映画を見て、演じる人が変わるとこんなにも印象が変わるのかと吃驚した」と語った。また、加奈子役の甲斐谷望さんは「帰りたいけれども帰れないという思いをずっと残したまま、それでも故郷に心を寄せていたい、そんな加奈子の葛藤をどうやって表現すればいいか悩んだ。自分自身、被災地のために何かしたくても何をしたいのかわからないという気持ちもある。だが、自分がこの作品に演者として参加することで、何かひとつでも返せることがあるのなら、それが何をしたいか今はわからないけれど、故郷に帰りたい」という加奈子の気持ちと重なっていくのかなと思ひ、その気持ちを大切に演じた」と、今回の作品に寄せる思いを表現した。

来場者アンケートでは「初めて朗読劇を見たが、とても素晴らしかった。映像とは違い、自分なりに場面を想像することができ深く感動した。」「震災の被害を受けていない自分も、地元で加奈子と同じ思いを感じていて、まるで自分の心の声を代弁してくれているような作品だったと感じた。」などの声を聞くことができた。また、被災地では入場無料の公演も多い中、有料にもかかわらず227名ものお客様が足を運んでくださったことは、被災地での有料公演の可能性を大きく広げたと感じている。



交換があり、結果それぞれの団体同士の繋がりが深まる、中味の濃い開催内容となったように思う。それぞれの団体の活動の問題点を挙げ、話しを進めるうち、「共通の問題点」が浮き彫りとなっていた。参加者から挙げられたのは、「高齢化による活動継続の問題点」、「指導者不足」、「指導する場の不足」について。さらに、成果お披露目の場となる展示会、発表会等については、「開催場所の不足」の問題や、「来場者の減少」また、「新たな演出や集客向上改善策の必要性」等、取り組むジャンルは違っても、お互いに同じ問題を抱えているということがわかった。

(報告：中山恭登)

「あの日から」出版記念朗読劇 「加奈子」

平成28年2月7日、「あの日から」出版記念朗読劇「加奈子」(作：平谷美樹 演出：盛合直人)が、宮古市民文化会館中ホールにて上演された。

主催事業イベント情報



「あの日から」出版記念朗読劇公演

岩手県出身の作家12人による、東日本大震災をテーマとした短編小説のアンソロジー「あの日から」が、平成27年10月11日に発刊されました。いわてアートサポートセンターでは、それらの作品を朗読劇として県内各地で上演し、震災の記憶を語り継いでいきます。

3月
公演情報

朗読劇『海辺のカウター』

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》菊池幸見 《演出》中村一二三 《出演》中山恭誉・伊勢二郎

◆3月17日(木) 19時 会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

★IBCアナウンサー菊池幸見さんが震災後に書き下ろした感動作を劇団赤い風の二人の俳優が読演します

朗読劇『愛那の場合』

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》松田十刻 《演出》大森健一 《出演》菊池与志和・佐藤真依・和泉優・重兼美里・煙山友理

◆3月26日(土) 18時 / 3月27日(日) 14時

会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

★劇団赤い風のフレッシュな女優陣が朗読劇に初挑戦。乞うご期待！

4月
公演情報

朗読劇『純愛』

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》石野晶 《演出》藤原正教

《出演》江幡平三郎・東海林千秋・千葉伴・阿部菜摘 《チェロ演奏》三浦祥子

◆4月17日(日) 14時 会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

朗読劇『スウィング』

【料金：前売…一般 1000円 学生・シニア 800円 当日…一般 1200円 学生・シニア 1000円】

《作》大村友貴美 《演出》坂田裕一

《出演》村松文代・おきあんど・二階堂芳子・菊池与志和・上野敏明・菅野崇・重兼美里

◆4月24日(日) 14時 会場：いわてアートサポートセンター風のスタジオ

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F

NPO法人いわてアートサポートセンター内

☎019-604-9020 FAX:019-604-9021

E-mail:kaze@iwate-arts.jp

http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698*

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732*

※いずれも口座名：いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173

口座名：いわてアートサポートセンター文化支援 代表 坂田裕一

現在の支援金総額 10,188,612円(平成28年2月24日現在)

ご支援、ご協力
ありがとうございます。